

一般社団法人 投資信託協会  
会長 白川 真 殿

(商号又は名称) BNPパリバインベストメント・  
パートナーズ株式会社  
(代表者) 代表取締役 島崎亮平 (印)

## 正会員の財務状況等に関する届出書

当社の財務状況等に係る会計監査が終了いたしましたので、貴協会の定款の施行に関する規則第10条第1項第17号イの規定に基づき、下記のとおり報告いたします。

### 1 委託会社等の概況

#### a. 資本金の額 (平成28年8月末現在)

資本金の額	3億5,000万円
発行可能株式総数	500,000株
発行済株式総数	89,000株

(最近5年間における資本金の額の増減)  
平成25年3月18日に2億5,000万円の増資  
平成25年3月21日に6億円の減資  
平成26年4月18日に2億5,000万円の増資  
平成26年8月1日に2億5,000万円の減資  
平成28年7月26日に2億5,000万円の増資

#### b. 委託会社等の機構 (平成28年8月末現在)

(1) 3名以上の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は、発行済株式総数の3分の1以上に当たる株式を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、就任後2年以内の最終の決算期に関する定時株主総会終結の時までとし、欠員の補充または増員により就任した取締役の任期は、他の取締役の残存任期と同一です。

取締役会は、取締役中より代表取締役1名以上を選任します。また、取締役の中から役付取締役を選任することができます。

取締役会は、代表取締役が招集し、議長となります。代表取締役に事故ある時、または代表取締役が取締役会を招集しようとしないうちもしくは議長となろうとしないうちは、取締役会が予め定めた順序に従い、他の取締役がこれに代わります。取締役会の招集通知は、会日の1週間前にこれを発します。取締役及び監査役全員の一致の同意がある時は、招集通知を省略し、または招集期間を短縮することができます。取締役会は、法令または定款に定める事項の他、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、議決に加わることができる取締役の過半数が出席し、その出席取締役の過半数をもって行います。

#### (2) 運用の意思決定プロセス

① 運用部門が独自に行う調査及びBNPパリバグループの資産運用部門が提供する内外の経済情勢及び個別企業の分析情報に基づき、運用部門において投資環境(内外経済・産業動向・株式及び債券市場・為替市場等)の分析を行います。

② 運用部門のファンド・マネジャーは、以上の分析結果をふまえ、各ファンドの運用の基本方針にしたがって具体的な投資方針を決定し、その投資方針に基づく具体的な運用戦略や投資計画を作成し実際

の投資行動を行います。

- ③運用を外部に委託するファンドにおいては、原則として、委託先が約款上の運用の基本方針にしたがって独自に運用戦略や投資計画を作成し運用の指図を行います。
- ④運用内容やファンド・マネジャーの投資行動のチェックは、運用部門から独立した管理部門のスタッフがこれを担当し、運用部門へのフィードバック及び担当取締役への報告を行うことにより、質の高い運用体制を維持できるように努めます。

## 2 事業の内容及び営業の概況

委託会社は、投資信託及び投資法人に関する法律に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行うとともに、金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また金融商品取引法に定める投資助言・代理業務及び第二種金融商品取引業務を行っています。

委託会社が運用するファンドの本数及び純資産総額合計額は以下の通りです。（平成28年8月末現在）

種類	ファンド数（本）	純資産総額合計額(単位：億円)
追加型株式投資信託	37	2,971
追加型公社債投資信託	0	0
単位型株式投資信託	8	214
単位型公社債投資信託	3	2
合計	48	3,187

※純資産総額合計額の金額については、億円未満の端数を切り捨てて記載しており、表中の個々の金額と合計欄の金額は一致しないことがあります。

## 3 委託会社等の経理状況

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。  
また、当社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

財務諸表及び中間財務諸表の金額については、千円未満を切り捨てて記載しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第18期事業年度（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。第19期事業年度（平成28年1月1日から平成28年12月31日まで）に係る中間会計期間（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツによる中間監査を受けております。

## (1) 貸借対照表

期別		第17期 (平成27年3月31日現在)		第18期 (平成27年12月31日現在)	
資産の部					
科 目	注記 番号	内訳	金額	内訳	金額
		千円	千円	千円	千円
流動資産					
預金	* 1		1,528,831		751,239
前払費用			10,913		14,843
未収委託者報酬			373,920		497,846
未収運用受託報酬			46,738		178,394
未収投資助言報酬			42,007		-
未収収益			212,476		223,886
未収入金			317		4,100
立替金			1,903		902
流動資産計			2,217,109		1,671,213
固定資産					
投資その他の資産			16,312		16,224
長期差入保証金		10,312		10,224	
その他		6,000		6,000	
固定資産計			16,312		16,224
資産合計			2,233,422		1,687,437

期別		第17期 (平成27年3月31日現在)		第18期 (平成27年12月31日現在)	
負債の部					
科目	注記 番号	内訳	金額	内訳	金額
		千円	千円	千円	千円
流動負債					
預り金			73,166		23,488
未払金			465,892		427,376
未払手数料		214,111		149,319	
未払委託調査費		150,293		188,101	
その他未払金		101,487		89,954	
未払費用			437,963		256,405
未払法人税等			36,408		-
賞与引当金			31,102		111,124
役員賞与引当金			4,913		27,307
流動負債計			1,049,446		845,702
固定負債					
退職給付引当金			314,850		289,900
役員退職慰労引当金			1,433		2,970
資産除去債務			101,800		102,699
固定負債計			418,083		395,569
負債合計			1,467,530		1,241,272
純資産の部					
科目	注記 番号	内訳	金額	内訳	金額
		千円	千円	千円	千円
株主資本					
資本金			100,000		100,000
資本剰余金			475,551		475,551
資本準備金		50,000		50,000	
その他資本剰余金		425,551		425,551	
利益剰余金			190,340		△129,386
その他利益剰余金					
繰越利益剰余金		190,340		△129,386	
株主資本合計			765,891		446,165
純資産合計			765,891		446,165
負債・純資産合計			2,233,422		1,687,437

(2) 損益計算書

期別		第17期 自平成26年4月1日 至平成27年3月31日		第18期 自平成27年4月1日 至平成27年12月31日		
		科目	注記 番号	内訳	金額	内訳
			千円	千円	千円	千円
営業収益						
委託者報酬				1,863,029		1,369,476
運用受託報酬				370,441		329,679
投資助言報酬				168,787		72,654
その他営業収益				781,704		541,445
営業収益計				3,183,962		2,313,255
営業費用						
支払手数料				792,114		531,990
広告宣伝費				2,204		767
調査費				603,132		457,365
調査研究費			59,655		42,871	
委託調査費			543,476		414,493	
委託計算費				100,266		82,774
営業雑経費				42,026		26,180
印刷費			38,373		22,243	
協会費			3,653		3,936	
営業費用計				1,539,744		1,099,078
一般管理費						
給料				1,058,387		640,506
役員報酬			60,109		24,750	
給料・手当			867,557		605,290	
賞与			130,720		10,465	
業務委託費				580,595		377,423
交際費				2,625		1,482
旅費交通費				27,612		22,533
租税公課				3,655		1,177
不動産賃借料				229,651		171,137
賞与引当金繰入額				19,459		81,138
役員賞与引当金繰入額				-		22,394
退職給付費用				63,961		43,806
役員退職慰労引当金繰入額				2,117		1,536
固定資産減価償却費				18,944		-
諸経費				182,194		121,138
一般管理費計				2,189,205		1,484,275
営業損失 (△)				△ 544,988		△ 270,098

期別		第17期 自平成26年4月1日 至平成27年3月31日		第18期 自平成27年4月1日 至平成27年12月31日		
		科目	注記 番号	内訳	金額	内訳
			千円	千円	千円	千円
営業外収益						
受取利息				43		399
為替差益				10,777		5,841
雑益				2,174		26,893
営業外収益計				12,995		33,134
営業外費用						
株式交付費				1,750		-
雑損失				1,661		645
営業外費用計				3,411		645
経常損失(△)				△ 535,403		△ 237,609
特別利益						
受贈益	* 1			950,000		-
特別利益計				950,000		-
特別損失						
割増退職金				41,121		80,399
減損損失	* 2			179,370		-
特別損失計				220,491		80,399
税引前当期純利益又は税引 前当期純損失(△)				194,104		△ 318,008
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額		36,409 △ 32,644		3,764	1,717 -	1,717
当期純利益又は当期純損失 (△)				190,340		△ 319,726

(3) 株主資本等変動計算書

第17期  
自 平成26年4月1日  
至 平成27年3月31日

(単位：千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備 金	その他資 本剰余金	資本剰余 金合計	その他利 益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余 金合計		
当期首残高	100,000	257,777	290,526	548,303	△572,751	△572,751	75,551	75,551
当期変動額								
新株の発行	250,000	250,000		250,000			500,000	500,000
減資	△250,000		250,000	250,000			-	-
資本準備金の取崩		△457,777	457,777	-			-	-
欠損填補			△572,751	△572,751	572,751	572,751	-	-
当期純利益					190,340	190,340	190,340	190,340
当期変動額合計	-	△207,777	135,025	△72,751	763,092	763,092	690,340	690,340
当期末残高	100,000	50,000	425,551	475,551	190,340	190,340	765,891	765,891

第18期  
自 平成27年4月1日  
至 平成27年12月31日

(単位：千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備 金	その他資 本剰余金	資本剰余 金合計	その他利 益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余 金合計		
当期首残高	100,000	50,000	425,551	475,551	190,340	190,340	765,891	765,891
当期変動額								
当期純損失					△319,726	△319,726	△319,726	△319,726
当期変動額合計	-	-	-	-	△319,726	△319,726	△319,726	△319,726
当期末残高	100,000	50,000	425,551	475,511	△129,386	△129,386	446,165	446,165

重要な会計方針

<p>1. 有価証券の評価基準及び評価方法</p>	<p>その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>
<p>2. 引当金の計上基準</p>	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等を、貸倒懸念債権等の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員への賞与支給に備えるため、支給見込み額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員への賞与支給に備えるため、支給見込み額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員への退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。</p>
<p>3. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準</p>	<p>外貨建金銭債権債務は、事業年度末の直物為替相場により円換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>
<p>4. その他財務諸表作成のための重要な事項</p>	<p>(1) 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。</p> <p>(2) 決算日の変更に関する事項 平成27年6月26日開催の定時株主総会決議により、定款を一部変更し、決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。したがって、当事業年度は平成27年4月1日から平成27年12月31日までの9ヶ月となっております。</p>

注記事項

(貸借対照表関係)

<p>第17期 (平成27年3月31日現在)</p>	<p>第18期 (平成27年12月31日現在)</p>
<p>* 1 関係会社項目 預金 1,528,332千円</p>	<p>* 1 関係会社項目 預金 743,925千円</p>

(損益計算書関係)

第17期 (平成27年3月31日現在)				第18期 (平成27年12月31日現在)											
*1 当社の親会社であるBNPパリバ インベ ストメント・パートナーズ SAより、当 社の営業を支援する目的で現金の贈与を受 けたものであります。				-											
*2 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グルー プについて減損損失を計上しました。				-											
用途	場所	種類	金額												
事務所設 備	東京都 千代田 区	建物・器具	千円												
		備品・ソフ トウェア	179,370												
<p>(経緯)</p> <p>上記資産につきまして、営業活動から生じる キャッシュ・フローが継続してマイナスになっ ているため、帳簿価格全額を回収不能とし、減 損損失として特別損失に計上しております。そ の内訳は、以下の通りであります。</p> <p>(減損損失の金額)</p> <table> <tr> <td>建物</td> <td>174,729 千円</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>3,776 千円</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>864 千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>179,370 千円</td> </tr> </table> <p>(グルーピングの方法)</p> <p>当社は投資信託委託・投資顧問業務等を営ん でおります。基本的に全ての資産が一体となっ てキャッシュ・フローを生み出す為、本社事務 所の全資産を一つの単位としてグルーピングを しております。</p> <p>(回収可能価額の算定方法等)</p> <p>当社の回収可能価額は使用価値を使用してお りますが継続して営業活動から生じるキャッ シュ・フローがマイナスとなっているため、使 用価値は零として算定しております。</p>								建物	174,729 千円	器具備品	3,776 千円	ソフトウェア	864 千円	合計	179,370 千円
建物	174,729 千円														
器具備品	3,776 千円														
ソフトウェア	864 千円														
合計	179,370 千円														

## (株主資本等変動計算書関係)

第17期 自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日				
1. 発行済株式に関する事項				
株式の種類	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
普通株式	19,000	20,000	—	39,000
*1 普通株式の発行済株式の増加 20,000株は、平成26年4月18日付のBNPパリバ インベストメント・パートナーズ SAを割当先とするものであります。				
2. 配当に関する事項 該当事項はありません。				
第18期 自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日				
1. 発行済株式に関する事項				
株式の種類	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
普通株式	39,000	—	—	39,000
2. 配当に関する事項 該当事項はありません。				

## (リース取引関係)

第17期 自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日	第18期 自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日
オペレーティング・リース取引は次の通りであります。	オペレーティング・リース取引は次の通りであります。
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものにかかる未経過リース料	オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものにかかる未経過リース料
(借主側)	(借主側)
1年内 125,248千円	1年内 172,287千円
1年超 -千円	1年超 321,681千円
合 計 125,248千円	合 計 493,968千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

第17期

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は主として、投資信託委託業者としての業務、投資一任業務及び投資助言・代理業を行っており、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収投資助言報酬、未払手数料及び未払委託調査費はこれらの業務にかかる債権債務であります。

当社は事業資金を自己資金により賄っており、一時的な余裕資金は安全性の高い金融商品で運用しております。

デリバティブは利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金は大部分が親会社に対するものであり、すべて高格付けの金融機関に対する短期の預金であることから、リスクは僅少であります。未収委託者報酬は、信託財産の分別管理により担保されており、リスクは認められません。

未収運用受託報酬、未収投資助言報酬は信用リスクに晒されております。

未収収益は兼業取引にかかるものであり、信用リスクに晒されております。未払手数料及び未払委託調査費は、当社が受取った報酬の内から支払われるものであり、リスクは認められません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク

営業債権の信用リスクは、クライアント・アクセプタンス・コミッティーによる審査と営業部によるモニタリングにより管理しております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）

当社の保有する営業債権・債務は短期金融商品に限定されているため、これらに関する市場リスクは非常に低いものと考えております。

③流動性リスク

当社は余剰資金を預金のみで運用しております。随時資金繰表を更新し、運転資金の状況を把握することにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

第17期  
(平成27年3月31日現在)

平成27年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

科 目	貸借対照表 計上額	時価	差額
預金	1,528,831	1,528,831	—
未収委託者報酬	373,920	373,920	—
未収運用受託報酬	46,738	46,738	—
未収投資助言報酬	42,007	42,007	—
未収収益	212,476	212,476	—
資産計	2,203,974	2,203,974	—
未払手数料	214,111	214,111	—
未払委託調査費	150,293	150,293	—
その他未払金	101,487	101,487	—
未払費用	437,963	437,963	—
負債計	903,855	903,855	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 預金

預金はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収投資助言報酬、未収収益

これらの営業債権はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 未払手数料、未払委託調査費

これらの営業債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) その他未払金、未払費用

これらの債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	1,528,831	—	—	—
未収委託者報酬	373,920	—	—	—
未収運用受託報酬	46,738	—	—	—
未収投資助言報酬	42,007	—	—	—
未収収益	212,476	—	—	—

## 1. 金融商品の状況に関する事項

第18期

自 平成27年4月1日  
至 平成27年12月31日

### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は主として、投資信託委託業者としての業務、投資一任業務及び投資助言・代理業を行っており、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未払手数料及び未払委託調査費はこれらの業務にかかる債権債務であります。

当社は事業資金を自己資金により賄っており、一時的な余裕資金は安全性の高い金融商品で運用しております。

デリバティブは利用しておりません。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

預金は大部分が親会社に対するものであり、すべて高格付けの金融機関に対する短期の預金であることから、リスクは僅少であります。未収委託者報酬は、信託財産の分別管理により担保されており、リスクは認められません。

未収運用受託報酬は信用リスクに晒されております。

未収収益は兼業取引にかかるものであり、信用リスクに晒されております。未払手数料及び未払委託調査費は、当社が受取った報酬の内から支払われるものであり、リスクは認められません。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

#### ①信用リスク

営業債権の信用リスクは、クライアント・アクセプタンス・コミッティーによる審査と営業部によるモニタリングにより管理しております。

#### ②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）

当社の保有する営業債権・債務は短期金融商品に限定されているため、これらに関する市場リスクは非常に低いものと考えております。

#### ③流動性リスク

当社は余剰資金を預金のみで運用しております。随時資金繰表を更新し、運転資金の状況を把握することにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

第18期  
(平成27年12月31日現在)

平成27年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

科 目	貸借対照表 計上額	時価	差額
預金	751,239	751,239	—
未収委託者報酬	497,846	497,846	—
未収運用受託報酬	178,394	178,394	—
未収収益	223,886	223,886	—
資産計	1,651,367	1,651,367	—
未払手数料	149,319	149,319	—
未払委託調査費	188,101	188,101	—
その他未払金	89,954	89,954	—
未払費用	256,405	256,405	—
負債計	683,781	683,781	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 預金

預金はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益

これらの営業債権はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 未払手数料、未払委託調査費

これらの営業債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) その他未払金、未払費用

これらの債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	751,239	—	—	—
未収委託者報酬	497,846	—	—	—
未収運用受託報酬	178,394	—	—	—
未収収益	223,886	—	—	—

## (有価証券関係)

第17期 (平成27年3月31日現在)	第18期 (平成27年12月31日現在)
重要性が低いと記載を省略しております。	重要性が低いと記載を省略しております。

## (デリバティブ取引関係)

第17期 自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日	第18期 自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

## (退職給付関係)

第17期 自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日	第18期 自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日																												
<p>1. 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度として、退職一時金制度、キャッシュバランスプランおよび確定拠出制度を採用しております。なお、当社が有する退職一時金制度及びキャッシュバランスプランは、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。</p> <p>2. 簡便法を適用した確定給付制度</p> <p>(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="0"> <tr> <td>退職給付引当金の期首残高</td> <td>306,097千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>54,100千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△40,030千円</td> </tr> <tr> <td>その他未払金への振替額</td> <td>△5,317千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金の期末残高</td> <td>314,850千円</td> </tr> </table> <p>(2) 退職給付費用</p> <table border="0"> <tr> <td>簡便法で計算した退職給付費用</td> <td>54,100千円</td> </tr> </table> <p>3. 確定拠出制度</p> <p>当社の確定拠出制度への要拠出額は、9,861千円でありました。</p>	退職給付引当金の期首残高	306,097千円	退職給付費用	54,100千円	退職給付の支払額	△40,030千円	その他未払金への振替額	△5,317千円	<hr/>		退職給付引当金の期末残高	314,850千円	簡便法で計算した退職給付費用	54,100千円	<p>1. 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度として、退職一時金制度、キャッシュバランスプランおよび確定拠出制度を採用しております。なお、当社が有する退職一時金制度及びキャッシュバランスプランは、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。</p> <p>2. 簡便法を適用した確定給付制度</p> <p>(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表</p> <table border="0"> <tr> <td>退職給付引当金の期首残高</td> <td>314,850千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td>37,220千円</td> </tr> <tr> <td>退職給付の支払額</td> <td>△57,117千円</td> </tr> <tr> <td>その他未払金への振替額</td> <td>△5,052千円</td> </tr> <tr> <td><hr/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金の期末残高</td> <td>289,900千円</td> </tr> </table> <p>(2) 退職給付費用</p> <table border="0"> <tr> <td>簡便法で計算した退職給付費用</td> <td>37,220千円</td> </tr> </table> <p>3. 確定拠出制度</p> <p>当社の確定拠出制度への要拠出額は、6,586千円でありました。</p>	退職給付引当金の期首残高	314,850千円	退職給付費用	37,220千円	退職給付の支払額	△57,117千円	その他未払金への振替額	△5,052千円	<hr/>		退職給付引当金の期末残高	289,900千円	簡便法で計算した退職給付費用	37,220千円
退職給付引当金の期首残高	306,097千円																												
退職給付費用	54,100千円																												
退職給付の支払額	△40,030千円																												
その他未払金への振替額	△5,317千円																												
<hr/>																													
退職給付引当金の期末残高	314,850千円																												
簡便法で計算した退職給付費用	54,100千円																												
退職給付引当金の期首残高	314,850千円																												
退職給付費用	37,220千円																												
退職給付の支払額	△57,117千円																												
その他未払金への振替額	△5,052千円																												
<hr/>																													
退職給付引当金の期末残高	289,900千円																												
簡便法で計算した退職給付費用	37,220千円																												

## (税効果会計関係)

第17期 自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日	第18期 自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日		
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		
(単位：千円)	(単位：千円)		
繰延税金資産	繰延税金資産		
退職給付引当金	111,330	退職給付引当金	102,508
役員退職慰労引当金	506	役員退職慰労引当金	1,050
賞与引当金	10,997	賞与引当金	40,463
未払金	22,737	未払金	37,641
未払費用	154,863	未払費用	64,587
その他	82,962	その他	77,458
繰越欠損金	2,338,840	繰越欠損金	2,399,769
繰延税金資産小計	2,722,239	繰延税金資産小計	2,723,478
評価性引当額	△ 2,722,239	評価性引当額	△ 2,723,478
繰延税金資産合計	—	繰延税金資産合計	—
繰延税金負債	—	繰延税金負債	—
繰延税金資産(負債)の純額	—	繰延税金資産(負債)の純額	—
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		
法定実効税率	36.05%	当事業年度は税引前当期純損失を計上しているため、差異の原因についての記載を省略しております。	
(調整)			
住民税均等割	1.96%		
交際費等永久に損金に算入されない項目	10.52%		
繰越欠損金の期限切れ	100.79%		
評価性引当額の増減額	△ 175.14%		
税率変更による影響額	27.37%		
その他	0.39%		
税効果会計適用後の法人税等の負担率	1.94%		

(資産除去債務関係)

第17期 自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日	第18期 自 平成27年 4月 1日 至 平成27年12月31日												
<p>資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの</p> <p>1. 当該資産除去債務の概要 当社事業所の定期建物賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。</p> <p>2. 当該資産除去債務の金額の算定方法 使用見込期間を15年(建物付属設備の減価償却期間)と見積もり、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回り0.94%から1.48%を使用して、資産除去債務の金額を計算しております。</p> <p>3. 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減</p> <table data-bbox="183 1041 726 1153"><tr><td>期首残高</td><td>100,614千円</td></tr><tr><td>時の経過による調整額</td><td><u>1,185千円</u></td></tr><tr><td>期末残高</td><td><u>101,800千円</u></td></tr></table>	期首残高	100,614千円	時の経過による調整額	<u>1,185千円</u>	期末残高	<u>101,800千円</u>	<p>資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの</p> <p>1. 当該資産除去債務の概要 当社事業所の定期建物賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。</p> <p>2. 当該資産除去債務の金額の算定方法 使用見込期間を15年(建物付属設備の減価償却期間)と見積もり、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回り0.94%から1.48%を使用して、資産除去債務の金額を計算しております。</p> <p>3. 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減</p> <table data-bbox="837 1041 1380 1153"><tr><td>期首残高</td><td>101,800千円</td></tr><tr><td>時の経過による調整額</td><td><u>898千円</u></td></tr><tr><td>期末残高</td><td><u>102,699千円</u></td></tr></table>	期首残高	101,800千円	時の経過による調整額	<u>898千円</u>	期末残高	<u>102,699千円</u>
期首残高	100,614千円												
時の経過による調整額	<u>1,185千円</u>												
期末残高	<u>101,800千円</u>												
期首残高	101,800千円												
時の経過による調整額	<u>898千円</u>												
期末残高	<u>102,699千円</u>												

(セグメント情報等)

第17期  
自 平成26年 4月 1日  
至 平成27年 3月31日

(セグメント情報)

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連情報)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	投資信託業	投資顧問業	その他	合計
外部顧客への営業 収益	1,863,029	539,228	781,704	3,183,962

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位：千円)

日本	オランダ	ルクセンブルク	その他	合計
2,227,464	457,374	183,839	315,285	3,183,962

(注) 投資信託業の営業収益に関しては販売拠点、投資顧問業とその他の営業収益については契約先所在地を基に記載しております。

(2) 有形固定資産

該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名
ヘッジファンド・リターン・ ターゲットファンド・為替ヘッ ジあり (SMA専用)	322,503	なし
BNPパリバ インベストメン ト・パートナーズ・ネイザーラ ンズ NV	457,374	なし

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

第18期  
自 平成27年 4月 1日  
至 平成27年12月31日

(セグメント情報)

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(関連情報)

1. 製品及びサービスごとの情報 (単位：千円)

	投資信託業	投資顧問業	その他	合計
外部顧客への営業 収益	1,369,476	402,334	541,445	2,313,255

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益 (単位：千円)

	日本	オランダ	ルクセンブルク	その他	合計
	1,587,661	307,873	234,763	182,957	2,313,255

(注) 投資信託業の営業収益に関しては販売拠点、投資顧問業とその他の営業収益については契約先所在地を基に記載しております。

(2) 有形固定資産

該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報 (単位：千円)

顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名
ヘッジファンド・リターン・ ターゲットファンド・為替ヘッ ジあり (SMA専用)	349,288	なし
BNPパリバ インベストメン ト・パートナーズ・ネーデルラ ント・エヌ・ブイ	307,873	なし
BNPパリバ インベストメン ト・パートナーズ・ルクセンブ ルク SA	234,763	なし

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

## (関連当事者関係)

## 1. 関連当事者との取引

第17期（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## (1) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容	議決権等 の被所有 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	BNPパリバ インベストメン ト・パート ナーズ SA	パリ、 フランス 共和国	23百万 ユーロ	持株会 社	直接 100%	増資の引受	増資 (注1)	500,000	—	—
						現金の贈与	受贈益 (注4)	950,000	—	—

## (2) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容	議決権等 の被所有 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社 の子会社	BNPパリバ インベストメン ト・パート ナーズ・ネイ ザーランズ NV	アムステ ルダム、 オランダ 共和国	1.45 百万 ユーロ	資産 運用業	無し	運用再委託契約 の締結	その他 営業収 益の受入	457,374	未収収益	115,574
親会社 の子会社	BNPパリバ インベストメン ト・パート ナーズ・ルク センブルク SA	ルクセン ブルク、 ルクセン ブルク大 公国	3百万 ユーロ	資産 運用業	無し	運用再委託契約 の締結	その他 営業収 益の受入	165,361	未収収益	44,951
親会社 の子会社	BNPパリバ アセットマネ ジメント ブラジル LTDA	サンパウ ロ、 ブラジル 連邦共和 国	15百万 レアル	資産 運用業	無し	運用再委託契約 の締結	委託 調査費 の支払	98,254	未払 委託 調査費	32,425
親会社 の子会社	BNPパリバ アセットマネ ジメント SAS	パリ、 フランス 共和国	67百万 ユーロ	資産 運用業	無し	投資助言契約の 締結	投資助言 報酬 の受入	165,672	未収投資 助言報酬	41,259
						業務委託契約の 締結	業務委託 費の支払	184,596	未払費用	123,348

親会社の子会社	BNPパリバ インベストメン ト・パート ナーズ・ベル ギー S A	ブリュッ セル、 ベルギー 王国	54百万 ユーロ	資産 運用業	無し	業務委託契約の 締結	業務委託 費の支払	265,272	未払費用	175,373
親会社の子会社	ファンド クエスト アドバイザー S A S U	パリ、 フランス 共和国	3百万 ユーロ	資産 運用業	無し	業務委託契約の 締結	諸経費 の支払	19,965	未払費用	21,748

第18期（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

(1) 兄弟会社等

種類	会社等 の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容	議決権等 の被所有 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社の子会社	BNPパリバ インベストメン ト・パート ナーズ・ネー デルラント・ エヌ・ブイ	アムステ ルダム、 オランダ 共和国	225千 ユーロ	資産 運用業	無し	運用再委託契約 の締結	その他 営業収 益の受入	307,873	未収収益	101,747
親会社の子会社	BNPパリバ インベストメン ト・パート ナーズ・ルク センブルク S A	ルクセン ブルク、 ルクセン ブルク大 公国	3百万 ユーロ	資産 運用業	無し	運用再委託契約 の締結  運用受託契約の 締結	その他 営業収 益の受入  運用受託 報酬の 受入	114,813  112,450	未収収益  未収運用 受託報酬	65,758  74,315
親会社の子会社	BNPパリバ アセットマネ ジメント S A S	パリ、 フランス 共和国	67百万 ユーロ	資産 運用業	無し	運用再委託契約 の締結  業務委託契約の 締結	その他 営業収 益の受入  業務委託 費の支払	35,833  95,871	未収収益  未払費用	34,794  57,823
親会社の子会社	BNPパリバ インベストメン ト・パート ナーズ・ベル ギー S A	ブリュッ セル、 ベルギー 王国	54百万 ユーロ	資産 運用業	無し	業務委託契約の 締結	業務委託 費の支払	185,349	未払費用	101,999

親会社 の子会社	ファンド クエスト アドバイザー SASU	パリ、 フランス 共和国	3百万 ユーロ	資産 運用業	無し	業務委託契約の 締結	諸経費 の支払	10,531	未払費用	18,943
-------------	--------------------------------	--------------------	------------	-----------	----	---------------	------------	--------	------	--------

#### 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) 当社の行った株主割当増資を1株当たり25,000円で引き受けたものであります。  
(注2) 市場価格を勘案し一般的取引条件と同様に決定しております。  
(注3) 取引金額及び期末残高には消費税が含まれておりません。  
(注4) 当社の営業を支援する目的で現金の贈与を受けたものであります。

## 2. 親会社に関する情報

### (1) 親会社情報

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ SA (非上場)  
ビー・エヌ・ピー・パリバ (ユーロネクスト・パリに上場)

### (1株当たり情報)

第17期 自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日		第18期 自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	
・ 1株当たり純資産	19,638円	・ 1株当たり純資産	11,440円
・ 1株当たり当期純利益	4,999円	・ 1株当たり当期純損失	8,198円
1株当たり当期純利益の算定上の基礎		1株当たり当期純損失の算定上の基礎	
当期純利益	190,340千円	当期純損失	319,726千円
普通株主に帰属しない金額	—	普通株主に帰属しない金額	—
普通株式に係る当期純利益	190,340千円	普通株式に係る当期純損失	319,726千円
期中平均株式数・普通株式	38,068株	期中平均株式数・普通株式	39,000株
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式を発行していないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純損失金額については、希薄化効果を有している潜在株式を発行していないため記載しておりません。	

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

期別		第19期中間会計期間末 (平成28年6月30日現在)	
資産の部			
科 目	注記 番号	内 訳	金 額
		千円	千円
流動資産			
預金			502,169
前払費用			8,939
未収委託者報酬			354,960
未収運用受託報酬			127,347
未収収益			201,626
未収入金			355
立替金			648
流動資産計			1,196,045
固定資産			
投資その他の資産			15,354
長期差入保証金		9,354	
その他		6,000	
固定資産計			15,354
資産合計			1,211,399

期別		第19期中間会計期間末 (平成28年6月30日現在)	
負債の部			
科目	注記 番号	内訳	金額
		千円	千円
流動負債			
預り金			20,586
未払金			358,758
未払手数料		111,958	
未払委託調査費		172,325	
その他未払金		74,474	
未払費用			145,805
未払法人税等			1,900
未払消費税等	* 1		5,826
賞与引当金			63,043
役員賞与引当金			16,975
流動負債計			612,895
固定負債			
退職給付引当金			299,778
役員退職慰労引当金			5,489
資産除去債務			103,303
固定負債計			408,571
負債合計			1,021,467
純資産の部			
科目	注記 番号	内訳	金額
		千円	千円
株主資本			
資本金			100,000
資本剰余金			475,551
資本準備金		50,000	
その他資本剰余金		425,551	
利益剰余金			△385,619
その他利益剰余金			
繰越利益剰余金		△385,619	
株主資本合計			189,932
純資産合計			189,932
負債・純資産合計			1,211,399

## (2) 中間損益計算書

期別		第19期中間会計期間 自平成28年1月 1日 至平成28年6月30日	
科目	注記 番号	内訳	金額
		千円	千円
営業収益			
委託者報酬			692,191
運用受託報酬			243,426
その他営業収益			332,451
営業収益計			1,268,069
営業費用			
支払手数料			265,060
広告宣伝費			649
調査費			280,249
調査研究費		27,072	
委託調査費		253,177	
委託計算費			56,548
営業雑経費			14,833
印刷費		12,560	
協会費		2,272	
営業費用計			617,342
一般管理費			
給料			416,465
役員報酬		17,333	
給料・手当		383,358	
賞与		15,773	
業務委託費			178,306
交際費			710
旅費交通費			15,737
租税公課			60
不動産賃借料			111,291
賞与引当金繰入額			62,918
役員賞与引当金繰入額			14,241
退職給付費用			41,222
役員退職慰労引当金繰入額			2,519
諸経費			65,370
一般管理費計			908,844
営業損失			△258,116

期別		第19期中間会計期間 自平成28年1月 1日 至平成28年6月30日	
科目	注記 番号	内訳	金額
		千円	千円
営業外収益			
受取利息			1
為替差益			11,543
雑益			3,585
営業外収益計			15,131
営業外費用			
雑損失			1,108
営業外費用計			1,108
経常損失			△ 244,093
特別損失			
割増退職金			10,240
特別損失計			10,240
税引前中間純損失			△ 254,333
法人税、住民税及び事業税			1,900
中間純損失			△ 256,233

### (3) 中間株主資本等変動計算書

第19期中間会計期間  
自 平成28年1月 1日  
至 平成28年6月30日

(単位：千円)

	株主資本							純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	100,000	50,000	425,551	475,551	△129,386	△129,386	446,165	446,165
当中間期変動額								
中間純損失					△256,233	△256,233	△256,233	△256,233
当中間期変動額合計	-	-	-	-	△256,233	△256,233	△256,233	△256,233
当中間期末残高	100,000	50,000	425,551	475,551	△385,619	△385,619	189,932	189,932

重要な会計方針

第19期中間会計期間 自 平成28年1月 1日 至 平成28年6月30日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法を採用しております。</p>
2. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等を、貸倒懸念債権等の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員への賞与支給に備えるため、支給見込み額のうち当中間会計期間に負担すべき額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員への賞与支給に備えるため、支給見込み額のうち当中間会計期間に負担すべき額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算については、退職給付に係る当中間会計期間末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。</p> <p>(5) 役員退職慰労引当金 役員への退職慰労金の支出に備えて、内規に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。</p>
3. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準	<p>外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末の直物為替相場により円換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>
4. その他中間財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。</p>

注記事項

(中間貸借対照表関係)

第19期中間会計期間末 (平成28年6月30日現在)	
* 1 消費税等の取扱い	<p>仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、流動負債の未払消費税等として表示しております。</p>

(中間株主資本等変動計算書関係)

第19期中間会計期間 自 平成28年1月 1日 至 平成28年6月30日				
1. 発行済株式に関する事項				
株式の種類	当期首株式数 (株)	当中間会計期間 増加株式数(株)	当中間会計期間 減少株式数(株)	当中間会計期間 末株式数(株)
普通株式	39,000	-	-	39,000
2. 配当に関する事項				
該当事項はありません。				

(リース取引関係)

第19期中間会計期間 自 平成28年1月 1日 至 平成28年6月30日
オペレーティング・リース取引は次の通りであります。 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものにかかる未経過リース料 (借主側) 1年内 172,287 千円 <u>1年超 235,537 千円</u> 合 計 407,824 千円

(金融商品関係)

第19期中間会計期間末 (平成28年6月30日現在)			
金融商品の時価等に関する事項 平成28年6月30日における中間貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。 (単位:千円)			
科 目	中間貸借対照表 計上額	時 価	差 額
預 金	502,169	502,169	-
未収委託者報酬	354,960	354,960	-
未収運用受託報酬	127,347	127,347	-
未収収益	201,626	201,626	-
資産計	1,186,102	1,186,102	-
未払手数料	111,958	111,958	-
未払委託調査費	172,325	172,325	-
その他未払金	74,474	74,474	-
未払費用	145,805	145,805	-
負債計	504,564	504,564	-
(注1)金融商品の時価の算定方法 (1)預金 預金はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。 (2)未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収収益 これらの営業債権はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。 (3)未払手数料、未払委託調査費 これらの営業債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。 (4)その他未払金、未払費用 これらの債務はすべて短期であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。			

(有価証券関係)

第19期中間会計期間末 (平成28年6月30日現在)
重要性が低いため記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

第19期中間会計期間末 (平成28年6月30日現在)
該当事項はありません。

## (資産除去債務関係)

第19期中間会計期間 自 平成28年1月 1日 至 平成28年6月30日	
資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの 当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減	
期首残高	102,699千円
時の経過による調整額	<u>604千円</u>
当中間会計期間末残高	103,303千円

## (セグメント情報等)

第19期中間会計期間 自 平成28年1月 1日 至 平成28年6月30日				
(セグメント情報) 当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。				
(関連情報)				
1. 製品及びサービスごとの情報				
(単位：千円)				
	投資信託業	投資顧問業	その他	合計
外部顧客への 営業収益	692,191	243,426	332,451	1,268,069
2. 地域ごとの情報				
(1) 営業収益				
(単位：千円)				
日 本	オランダ	ルクセンブルク	その他	合計
823,868	175,084	176,132	92,984	1,268,069
(注)投資信託業の営業収益に関しては販売拠点、投資顧問業とその他の営業収益については契約先所在地を基に記載しております。				
(2)有形固定資産 該当事項はありません。				
3. 主要な顧客ごとの情報				
(単位：千円)				
顧客の名称	営業収益	関連するセグメント名		
ヘッジファンド・リターン・ ターゲットファンド・為替ヘッ ジあり (SMA専用)	183,566	なし		
BNPパリバインベストメン ト・パートナーズ・ルクセンブ ルク SA	176,132	なし		
BNPパリバ インベストメン ト・パートナーズ・ネーデルラ ント・エヌ・ブイ	175,084	なし		
(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)				
該当事項はありません。				
(報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報)				
該当事項はありません。				
(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)				
該当事項はありません。				

(1株当たり情報)

第19期中間会計期間 自 平成28年1月 1日 至 平成28年6月30日	
1株当たり純資産額	4,870円
1株当たり中間純損失	6,570円
1株当たり中間純損失の算定上の基礎	
中間純損失	256,233千円
普通株主に帰属しない金額	—
普通株式に係る中間純損失	256,233千円
期中平均株式数	普通株式 39,000株
なお、潜在株式調整後1株当たり中間純損失金額については、希薄化効果を有している潜在株式を発行していないため記載しておりません。	

(重要な後発事象)

第19期 自 平成28年1月 1日 至 平成28年6月30日	
当社は平成28年7月25日開催の取締役会及び臨時株主総会において、株主割当増資に関して次のとおり決議し、平成28年7月26日に払込が完了しました。	
発行株式数	普通株式 50,000株
発行価額	1株につき10,000円
発行価額の総額	500,000千円
資本組入額	1株につき5,000円
資本組入額の総額	250,000千円
割当先	BNPパリバ インベストメント・パートナーズ SA
資金の使途	運転資金

# 独立監査人の監査報告書

平成28年3月11日

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤 嘉雄 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 信之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成27年4月1日から平成27年12月31日までの第18期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、当社が、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の中間監査報告書

平成28年9月9日

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 信之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 正田 誠 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成28年1月1日から平成28年12月31日までの第19期事業年度の中間会計期間（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成28年7月25日開催の取締役会及び臨時株主総会において株主割当による株式の発行を決議し、平成28年7月26日に払込が完了している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、当社が、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

公開日 平成28年 9月30日  
作成基準日 平成28年 9月 9日

本店所在地 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
お問い合わせ先 法務・コンプライアンス部